

平成25年度天皇杯受賞者受賞理由概要
農産部門

大幅な生産コスト削減を実現した先進的大規模稲作経営

○氏名又は名称 有限会社 横田農場（代表 横田 修一）

○所在地 茨城県龍ヶ崎市

○出品財 経営（水稻）

○受賞理由

・地域の概要

龍ヶ崎市は茨城県の南部に位置し、市の南部は県下でも主要な穀倉地帯を形成しており、水稻は市の主要産物となっている。一方、農業就業人口は20年間で半減しており、高齢化と担い手不足が深刻な問題となっている地域である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

平成8年に法人を設立した当初は、家族と親戚の計5名で16haを経営していたが、農家の高齢化と担い手の減少、さらに土地改良事業の実施や、近隣の大規模経営者の離農などから借地面積が急速に増加し、平成24年には経営面積は88haに拡大、社員数は14名となった。平成8年に2千5百万円だった売上高は、経営規模の拡大や消費者への米の直接販売などにより、平成24年には1.1億円と大幅に増加した。

・受賞者の特色

(1) 効率的な大規模経営

農地の集積と大区画化による作業効率の向上、多品種の組合せによる田植え及び収穫期間の拡大、ITの活用による効率的なほ場管理、人材育成などの取組みにより、88haの水田の大半を田植機とコンバイン各1台体系で作業している。こうした取組により、米の生産に係るコストは全国平均のおよそ半分となっており、大幅なコスト削減を実現している。

(2) 米の直接販売への取組

『「おいしくて、安全で、求めやすいお米」を直接消費者へ』をコンセプトに販路拡大に力を入れてきた結果、横田農場で生産する米の約9割は、消費者、量販店等へ直接販売している。また、環境に配慮した安全安心な米を提供するため、機械除草、再生紙マルチ移植による有機栽培などにも取り組んでいる。

(3) 地域住民との協調と米の魅力を伝える米粉製品の加工販売

お米の魅力や価値を消費者に伝え、再認識してもらうため、自社生産の米粉を100%使用したスイーツの加工・販売を行うほか、地元の小学生や地域住民を対象とした「田んぼの学校」を開校しており、春には田植え、秋には稲刈りを中心とした農業体験ができる場として、年間のべ600名の地域住民が参加している。

・普及性と今後の発展方向

当地区は高齢化が進む一方、地域の担い手は横田農場のみという状況になってきており、地域の担い手として、地域住民からの信頼と期待の高い横田農場には、今後さらに農地の集積が進み、経営規模が拡大していくことが見込まれる。

低コスト化をはじめとした生産面の取組みだけでなく、地域住民との協調や加工・販売面も重視した経営を行っており、地域農業を維持する“先進的大規模稲作経営モデル”としての期待は大きい。